

製品名: KLK1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13070**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	29kDa

抗原情報

遺伝子名	KLK1
別名	KLK1; Kallikrein-1; Kidney/pancreas/salivary gland kallikrein; Tissue kallikrein
遺伝子 ID	3816.0
SwissProt ID	P06870
免疫原	抗血清はヒト KLK1 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 81-130

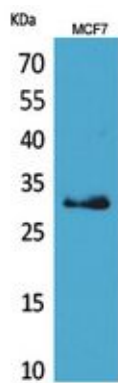
背景

カリクレインは、多様な生理機能を有するセリンプロテアーゼのサブグループです。多くのカリクレインが発がんに関与していること、そして一部のカリクレインが新たながんやその他の疾患バイオマーカーとなる可能性を示唆する証拠が増えています。この遺伝

子は、19番染色体上のクラスターに位置する15のカリクレインサブファミリーメンバーの1つです。このタンパク質は、低分子量キニノーゲンから血管作動性ペプチドであるLys-ブラジキニンを遊離させる能力において、機能的に保存されています。[RefSeq提供、2008年7月]、触媒活性：低分子基質中のArg-|-Xaa結合の選択的切断。キニノーゲンからカリジン（リシル-ブラジキニン）を高度に選択的に遊離させる作用には、Met-|-XaaまたはLeu-|-Xaaの加水分解が関与する。機能：腺性カリクレインはキニノーゲンのMet-Lys結合およびArg-Ser結合を切断し、Lys-ブラジキニンを遊離させる。、オンライン情報：カリクレインエントリー、PTM：Ser-93、Ser-104、およびSer-167のO結合型多糖は、おそらくGalNAcに結合したムチン型である。PubMed:3163150では、対応するペプチドと共にGalNAcが検出されたが、その位置は特定されていない。、類似性：ペプチダーゼS1ファミリーに属する。、類似性：ペプチダーゼS1ファミリーに属する。カリクレインサブファミリー。、類似性：1つのペプチダーゼS1ドメインを含む。、組織特異性：アイソフォーム2は、膵臓、唾液腺、腎臓、結腸、前立腺、精巣、脾臓、および結腸腺癌細胞株T84で発現している。、

研究分野

画像データ



KLK1 ポリクローナル抗体を用いた MCF7 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。